酒々井町
郷土研究会々報
第75号
平成7年1月1日発行
酒々井町郷土研究会
編集部

日本の神々の系図（一）

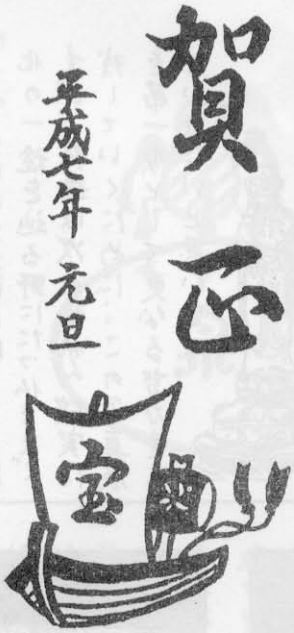
会田秀雄

郷土研究会事業の一部として史談会があります。その史談会は酒々井町にある神社二五社の沿革、そこに祀られる神々を調査研究することにありましたがそれも平成六年で終了することができました。

さて、仏教に関する書物、参考書等は多数発刊されておりますが、神道についてはよりになるものといえば、『古事記』や『日本書紀』のほか神社庁で調べるか書店に足を運び神道に関する本をあさりましたが、特殊な本だけに置いてない書店がほとんどです。やはり『古事記』、『日本書紀』がなんといっても神々を調べるには基本です。この記紀を基本として酒々井町二五社の神々を調査したことを申し上げておきます。

丁度、会報の前号までが仏像に関するシリーズでしたので、今度は日本古来の神々の系図と由しますか、宇宙の初めに現れた天之御中主神を一番に一二五番目に現れた若御毛沼命（神武天皇）まで番号をふって書きたいと思います。

最初に『古事記』とは、『日本書紀』とはなにかから書き始めたいと思います。



古事記の一番はじめに「序」という前書きがついています。この序によると、壬申の乱を経て天皇の位に即かれた天武天皇は、「諸氏の家に伝わる帝紀と本辞は、正実と違い、虚偽を加えているものが甚だ多いと聞くが、今その誤りを改めないと幾年も経たぬうちに正しい歴史は滅んでしまうであろう。これこそが邦家の経緯（国の根本組織）王化の鴻基（天皇徳政の基本）である。そこでそれらを討究、撰録をして偽りを削り、実を定めて、後の世に伝えんと思う」と詔を発して『古事記』を作らせたといいます。天武天皇は施策の一つとして氏姓の尊卑に重きを置き、秩序を立てて新政の安定をはかろうとされた。すると諸家のうちには自家を有利にしようとして、家に伝わる帝紀や本辞を改変する者が出ました。そこで天皇は、このさい虚偽や歪曲を排した公正な国史を編修して、秩序を回復し、邦家の経緯と王化の鴻基とを確立しようと決意されたという訳です。

記の序は、つづいて次のように述べています。「時に、天皇の側近に奉仕する舎人に稗田阿礼という者があった。年齢二八の盛りで生まれつき聡明であって、どんな文でも一見しただけで直ちに口に誦えることができ、一度聞いたら決して忘れることがなかった。そこで天皇はこの阿礼にご自身で直接お命じになって、帝紀と旧辞を読み習わされた。けれども天皇の御代が替わって、ついに帝紀と旧辞の討究、撰録は行われなかった」

このように天武天皇は目的を果たすことなく崩御されました。それから二五年を経た和銅四年（七一一）に元明天皇が、太朝臣安萬侶にたいして、稗田阿礼が誦える史料を撰録して献上せよとの勅を発せられた。安萬侶は、その命を受けて、阿礼の誦える帝紀と旧辞を綜合し、三巻の書にして献上した。これが記の序で安萬侶自身が述べる和銅五年に『古事記』が成立した事情なのです。

稗田阿礼についてはいろいろ疑問にされ、例えば阿礼の正体が明確でないとか、若年であれだけの事が出来得たのだろうか、また阿礼は男性ではなく女性であったのではないかという事で、このようにいわれている研究者もおられます。折をみて以上のことは後日にいたします。

それでは次号にて……

新年明けましておめでとうございます。昨年は国際・国内情勢ともに波瀾万丈、変転極まりない世情に年頭にあたり今年こそは四海波静かなれと祈るばかりです。

「人は心ほどの世を経る」の名言に自分の心がけ次第でその一生が決まって行くかと思うと、残された少ない人生航路に、今からでも充分心すべきことがらと誓う次第です。

皆さまの御健勝・御多幸をお祈り申し上げます。

「道の辺の石仏と双体道祖神」写真展から

菊の香漂う十一月五・六・八の三日間、郷土研は町の生涯学習フェスティバルに参加し、「道の辺の石仏と双体道祖神」の写真展を開催しました。

かって昭和五十三年から五十八年にかけて、暑さ寒さの中、会の諸先輩達は町内の石仏を埋もれたものは掘り起こし、倒れたものは立て直して余すところなく調査しました。総数一〇一二基のうち、今回展示されたのは二四基だけでしたが、日頃、ひっそりと忘れられていた仏さまにとって、この日は晴れの主役です。それでも慎しみ深く静かに微笑んでおられる会場には、連日多勢の人達が見えて「この仏さまは見たことがある」とか「この仏さまは何処にあるのかしら」の声が聞かれました。

その一つ一つに会田会長、青木副会長のていねいな説明があり、皆さんにより身近な仏さまになったことでしょう。

長い年月、風雨に曝され、風化の一途を辿る野にたつ仏さまですが、私達は次の世代へ確実に残していくために、この写真展を第一歩として更なる努力をしていきたいと思います。

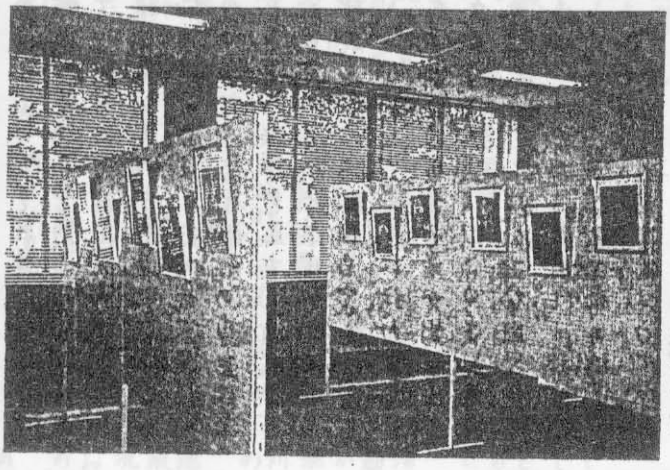
史談会から お知らせ

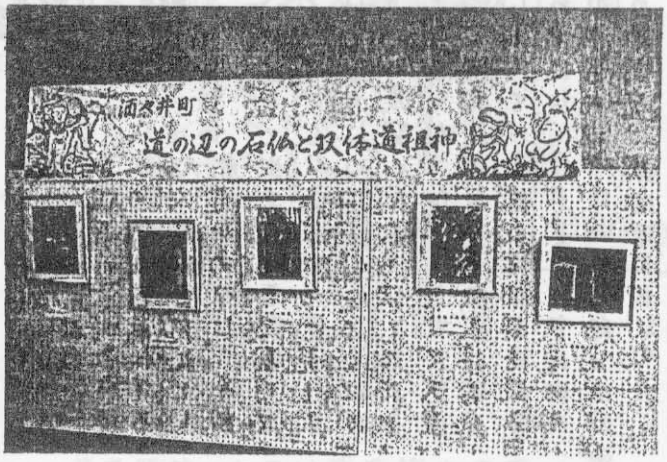
史談会の「酒々井町の石仏と文化財」が、旧年十二月をもって終了いたしました。

今年度は高橋健一先生に講師をお願いし昨年の郷土史講座で好評いただきました「史料にみる酒々井の歴史のひとこま」をさらに深く勉強したいと思います（第二・土・曜日から第三・土・曜日に変更になりました。行事案内表参照）。

肩ひじ張らない気楽な史談会です。どんな歴史のひとこまが飛び出すか、乞御期待！

◎テキストに『史料にみる酒々井の歴史のひとこま』を使いますので御持参願います。持ってない方は事務局でコピーしますので実費ご負担下さい。





県内見学会々計報告

（佐原・小見川 10/13・10/17）

参加人数 54人

収入	1,000円×54	54,000円
支出	バス使用料	20,600円
	ドライバーお礼	6,000円
	三ヶ寺お布施	18,000円
	コピー代 外	1,986円
	返金1人100円×54	5,400円
		51,986円

（54,000－51,986＝2,014）

残 2,014円 郷土研へ

県外見学会々計報告

（水戸・笠間方面 11/7）

参加人数 47人

収入（会費1人 6,000円）	
6,000×47	282,000円
支出	
返金1人700円×47	32,900円
八幡観光へ	227,450円
お寺・案内員お礼	16,700円
コピー、その他	2,205円
	279,255

（282,000－279,255＝2,745）

残 2,745円 郷土研へ

郷土研日誌　10月～12月

月日	内容	参加人数
10/7	見学会申込	15名
10/8	史談会「酒々井町の石仏と文化財」	10
10/13	県内見学会（A班）小見川・佐原方面	32
10/17	〃（B班）〃	22
11/5～11/8	生涯学習フェスティバル参加「道の辺の石仏と双体道祖神」写真展 延	252
11/7	県外見学会　水戸・笠間方面	47
11/12	史談会「酒々井町の石仏と文化財」	9
12/2	名勝探訪　九段・神田方面	25
12/10	史談会「酒々井町の石仏と文化財」最終回	10
12/3	運営委員会	22
12/24	会報発送	25

第75号（No.3）　酒々井町郷土研究会々報　平成7年1月1日（日）

敢えなく果てた侠客哀れ

亀井　香久乃

十月に行われた郷土研見学会は、日頃人づてにも聞くことの少ない古刹を案内して下さった。荘厳寺の十一面観音像（重文）を始め樹林寺、来迎寺等を訪詣したが、仏像に関しては不勉強ゆえ、毎回立派なお姿に頭を垂れ、今日この時代に前に額ずける身の幸せに謝する以外私は為す術がない。そこで先ず訪れた平田三亀（平手造酒）の墓だが、「天保水滸伝」といえば此の名前は不可欠である。今から約一五〇年前、天保の大飢饉に世情は荒み、博徒、暴徒の跋扈に人びとは辟易としていた。そこで有名なのが大利根川原の血闘、飯岡助五郎対笹川繁蔵の闘いである。笹川方の用心棒であった造酒は、酒と脂粉に溺れ、その上結核末期患者のため、切り込みに馳せることなく息絶えたという。江戸末期、宝井琴凌が講談に載せたのが現在に至っている。

浅草バス車中で青木副会長が参加男性諸氏に「心にぜひ銘記してほしい寺があります」と申されたが目に入った。本堂に上がり住職様の法話を一同聴きいり、「何事も両手を合わせ祈れば必らず幸せになる」との件では「テレビでよく見るね」と囁きがあった。裏山庭園では三六体の観音像に一体づつ心を止め、辺りの植物に目を向けたがきれいに整理されてしまっていて期待ほどではなかったけれどムラサキシキブ、ヤクシソウ、ツリガネニンジンが見られた。愛慈妻寺に詣でた殿方達は、今後、以前にも増して愛妻家になられるであろうと思いつつ次なる目的地へと向かった。

県外見学会に参加して

鬼丸　幸子

この度、十一月七日郷土研に夫婦で初めて参加させて頂きました。どんよりの曇り空でうす暗い中、六時三〇分公民館を出発し、最初に大洗町の磯崎神社でした。百余段の階段を登った高台にあり、大きな鳥居が目立ち、昔は燈台の役目をしていたそうです。一七三〇年（享保十五年）に水戸藩主綱校によって建てられた神社特有の静寂に包まれた由緒ある神社でした。次は東海村の村松虚空蔵尊ですが、日本三大虚空蔵の一つであるといわれ、初厄の十三歳に詣でればその厄を除いてくれるということから「十三詣り」といわれ参拝者が多いそうです。

次に訪れたのは西山荘、ここは水戸光圀公が元禄四年から隠居され、同十三年七三歳で亡くなるまでここで過されたそうです。静かな庭に草ぶきの本当に質素な住居で、卿は読書や構想を練りいろんな事業を進めてきたのでした。今から一七〇年前にその一部を復元したのが現在の建物だそうです。次の常北町の佐久山薬師寺ですが、昭和三十二年に火災にあいましたが幸い本尊の薬師如来坐像（重要文化財）は両脇侍像と共に難を免れました。中々お目にかかることはむずかしいそうですが、会長さんのご努力により今回拝尊することが出来ました。

次の小松寺が又由緒あるお寺で、平重盛のお墓があり、寺宝の如意輪観音像も重要文化財で約八センチ四方の白檀材に浮き彫りにした小品でしたが、それは〈〈精緻をきわめ端麗な表情をなさっておりました。最後は笠間市の中央にある笠間稲荷神社に参りました。信仰の範囲は関東一円に及び、十一月は菊祭りで有名です。実のところ大きな声ではいえませんが、私達夫婦はそれほど仏像仏閣に興味があったわけではなかったのですが、皆さんが引きつけられるのも何か判かった気がしました。安い費用で充実した一日を夫婦揃って過すことが出来ましたのも役員の方々のお陰と心より御礼申し上げます。また是非参加させていただきたいと思います。

第75号（No 4）　酒々井町郷土研究会々報　平成7年1月1日（日）

郷土研行事案内

平成7年1月～3月

	1月	2月	3月
史談会	休み	18日（土）午後1時30分 中央公民館 「史料にみる酒々井の歴史のひとこま」(1) 講師　高橋健一 先生 ※ テキスト ご持参ください。	18日（土）午後1時30分 中央公民館 「史料にみる酒々井の歴史のひとこま」(2) 講師　高橋健一 先生 ※ テキスト ご持参ください。

名勝探訪

1月18日（水）（雨天中止）代替日 1月20日（金）　京成酒々井駅 8:15 集合

西新井大師方面　京成酒々井 ++ 関屋 — 牛田 ++ 西新井 ++ 大師前 — 大師参拝 — 大師前 ++ 西新井 — 猿仏塚 — 来迎寺 — 国土安穏寺 — 西新井 ++ 牛田 — 関屋 ++ 酒々井

野草の会

2月23日（木）12時より於 中央公民館講堂

定員 80名　会費 700円

七草粥を食べる会

申込み受付 — 1月31日（火）12時30分より公民館ロビーで受け付けます。（総会当日）

◎ 当日お手伝いいただける方は9時に調理室においでください。

県内見学会

3月8日（水）A班
3月9日（木）B班
各班 定員 33名

中央公民館 8時30分 出発　（雨天決行）
費用 1.000円（昼食代は入っていません）

銚子方面　酒々井中央公民館 — 影向寺 — ヤマサ醤油見学 — ポートタワー・ウオッセ21（昼食）— 猿田彦神社 — 酒々井

申込受付日 — 1月31日（火）12時30分より。　キャンセル…実施日3日前までに会田秀雄宅に連絡下さい。
申込場所 — 中央公民館ロビー　（TEL [redacted]）

平成7年総会

平成7年度 第19回総会

1月31日（火）於 中央公民館講堂

受付時間　12時30分受付（開会13時30分）
受付場所　中央公民館ロビー
会費受付　年納入会費 1.000円

◎ ご多忙の折恐縮に存じますが多数のご出席をお願いします。

議事
- 平成6年度事業報告及び決算報告
- 平成6年度会計監査報告
- 平成6年度事業及び決算の承認について
- 平成7年度事業計画案及び予算案について
- 役員・運営委員の改選について
- その他

見学案内

県内見学会 3/8（水）・3/9（木）

◎ 銚子方面

銚子は全国有数の水産都市。古帳庵が〻国のとっぱずれ〻と詠んだ句も、怒濤の彼方に丸みを帯びた水平線を見ると、まさに実感。

- ヤマサ醤油＝創業はヒゲタ醤油と共に、江戸時代
- ポートタワー・ウオッセ21　海原をのぞんで海抜五十七、七メートルの総熱反射ガラス張り展望タワーで、三・四階展望室から銚子一円を一望できる。ここで昼食をとりタ飯のおかずも調達しよう。まぐろ、干物工房など魚や水産加工品を主に、民芸品、雑貨などの専門店が並ぶ。
- 猿田彦神社＝境内は約一万八千平方メートルでスダジイ・アカガシなどの大木がうっそうとしている。境内全域が県の天然記念物に指定されている。

名勝探訪 1/18（水）雨天 代替 1/20（金）

◎ 西新井大師方面

小正月も終わり、落ち着かれたところで、皆さんと一緒に西新井大師方面へ行きたいと思います。

西新井大師は弘法大師が創建されたと伝えられ、川崎大師と並ぶ関東第一の厄除け開運霊場です。境内を一周すると長寿に効きめがある延命水洗い地蔵などがあります。

大師駅から西新井駅にもどり、子供の厄除け塚である猿仏塚によります。願かけには泥ダンゴを、お礼には米ダンゴを供えるそうです。

又、近くには江戸時代に鷹狩りに来た将軍が休息所とした国土安穏寺などがあります。

今回はこれくらいにしてまだまだ落日が早いので足もとの見えるうちに酒々井へ帰りましょう。

あとがき

今 私達編集部は 今年最後の会報の編集の真最中。記録的な猛暑、郷土研の産みの親の前会長さんの御逝去と、いろ〳〵あって今年も余すところ僅か、冬陽に映える柿の実、静かに散る落葉、晩秋から初冬へ、自然のいとなみは静かに変わりつゝあります。郷土研に入会して早二年、たくさんの方と知り合い、思い出作りも数多くできました。内にこもらず外に出ることがボケ防止にもなるとか。これからも人との和を大切に研修を重ね、来年も又心身共に健康で過せたらと願っております。皆さまもよいお年をお迎え下さい。